

第2章 農業・畜産業

農水産課

第1節 農業

本市の農業は、県下第一位の米の生産量を有する水田地帯と、なだらかな丘陵部の畑地を基盤とし、水稲・露地野菜・施設園芸・畜産等の複合経営が行われており、恵まれた自然条件と都市近郊という立地条件を生かし、多種多様な農産物が生産されている。

しかしながら、本市においても経営耕地の減少、農業従事者の他産業への流出等、農業経営環境の悪化が進み、遊休農地の活用も求められている。また、農業者の高齢化や後継者不足により将来の農業を支える担い手確保が緊急の課題となっている。

このような情勢下において、他産業と均衡のとれた調和ある農業の発展を図るためには、農業の経営安定を図ることが必要であり、そのために「平塚農業振興地域整備計画」に基づく事業の展開と農業生産の基盤となる農地や農道、用排水路等の基盤整備を進めてきた。

今後も、農業の持つ多面的機能を有効活用するとともに、魅力ある都市型農業の振興を図るための施策を展開していく。

1 農業構造と経営耕地の状況

いずれも 2015 年農林業センサス調べ
市内総世帯数は 2015 年 2 月 1 日現在

農家数 (単位 戸)

市内総世帯数	106,294	農家比率 1.6%
総農家数	1,671	
販売農家	1,081	専業農家比率 24.6%
専業農家	411	
兼業農家	670	
自給的農家	590	

販売農家における農業就業人口 (単位 人)

合計	1,891
男	983
女	908

地目別経営耕地面積

地目	田	畑	樹園地
面積 (ha)	622	385	27

水田の大部分は、農業構造改善事業等が早くから導入されたことにより、10a を基本とした長方形に整備されている。また、基盤整備事業の実施により、農道、水路の整備と暗渠の敷設により、大型機械の利用とともに、水田の汎用がしやすい状況となっている。

2 農業生産状況

稲作は、農業経営において基幹的な役割を果たしており、生産量は県内トップの2割を占めている。これまでの主力品種は「キヌヒカリ」であったが、市内にある研究機関が育種した「はるみ」が平成27年2月に県の奨励品種として採用され、平成29年2月には日本穀物検定協会による「米の食味ランキング」で最高ランクの特Aの評価を受け、後継品種としてシェアを伸ばしつつある。

また、稲作の転作事業の長期的な実施に伴い、他作物への移行が進んでおり、施設園芸への転換では、トマト・キュウリ・いちごのほか、バラ・鉢物などが栽培されている。このうち、トマト・キュウリの栽培においては、最新技術の導入等により効率的な営農が展開され、生産物は京浜地方を中心に、市場に出荷されている。いちご栽培においては、栽培技術の研究や市場性の高い品種への転換などにより、良質果実の出荷が行われている。近年ではいちご狩りが盛況で、観光資源としての「農」が見直されている。

畑作は、年間を通じてほうれんそう・こまつな等の軟弱野菜が栽培されており、春夏作ではキュウリ・なす・甘しょ・えだまめが、秋冬作ではねぎ・キャベツ・はくさい・大根・ブロッコリー等が主として栽培されている。また、水田営農活性化対策の一環として、ねぎ・さといも等が栽培され、産地を形成している。

果樹は、かき・なし・ぶどう等を中心に、病虫害防除の徹底と、整枝せん定により生産性の向上を図るとともに、販路システムの研究や優良品種の導入を進めている。

花きは、温室栽培が主流であり、市場性の高いバラやユリなどの切花や鉢物、花壇苗、洋蘭などを栽培し、その多くは関東一円の市場へ出荷されるほか、地元直売所へも出荷されている。

いずれの作物も、消費者の安心・安全志向に沿った登録農薬の適正使用や減農薬による環境に配慮した生産がされ、神奈川県との間に環境保全型農業推進団体として協定を締結する組織や、エコファーマーの認定を受ける生産者が誕生している。

近年、全国的な問題であり本市でも発生しているイノシシやカラス等による農作物被害対策では、平成24年度に「平塚市農作物鳥獣被害対策事業補助金交付金要綱」を制定し、農畜産業を営む者に対し、有害鳥獣防除用資材の購入に対する補助を実施している。また、平成27年度からは「平塚市鳥獣被害防止計画」に基づき、鳥獣捕獲の促進や鳥獣を寄せ付けない環境の整備や、捕獲強化のための「平塚市鳥獣被害対策実施隊」の設置により、被害対策の強化を進めている。

今後、さらなる農業経営の安定化のため、各種の支援事業を実施するとともに、6次産業化への取組支援や、少量多品種生産農家の販路拡大に向けた調査・検討を進めていく。また、地産地消の一層の推進のため、各種イベント等を通じ農業理解や農産物の普及並びに消費拡大を促進していく。

(1) 主な事業

- ア 都市農業促進事業
- イ 担い手総合対策事業
- ウ 農業者金融支援事業
- エ 水田農業経営確立対策促進事業
- オ 農業振興対策補助事業
- カ 農作物鳥獣被害対策事業

(2) 類別作付経営体数 (単位 経営体)

区分	経営体数	露地	施設
稲	267	-	-
雑穀・いも類・豆類	11	-	-
野菜類	198	139	59
果樹類	17	-	-
花き・花木	43	-	-

2015年農林業センサス調べ
※主位部門の販売金額が8割以上

第2節 畜産業

近年の畜産業は、宅地開発や住居の混住化等に伴う環境改善対策施設整備を始めとして、後継者不足、BSEや口蹄疫、鳥インフルエンザ等の感染症対策、飼料価格の高騰、牛乳の消費低迷等、様々な問題が発生している。

このような厳しい経営環境の下、畜産環境改善対策の一環として、家畜用浄化槽や堆肥化施設等の家畜排せつ物処理利用機械施設の改修に対して、畜産農家への支援事業を実施した。また、家畜の伝染病対策として、平塚市畜産会を通して、県家畜保健衛生所及び県畜産会と連携し、予防注射の補助制度を設け、伝染病の発生予防に努めた。さらに、家畜の改良増殖と生産振興を図り、併せて市民に対して畜産業への理解を図るため、平塚市畜産共進会を平塚市総合公園で開催した。

1 地区別農家数及び飼養頭数の状況

農家数：平成29年3月31日現在

飼養頭数：平成28年2月1日現在

区分	地区名	土沢	金目	岡崎	金田	豊田	城島	神田	大野	計
乳用牛	農家数(戸)	12	2	2	3	4	2	2	3	30
	頭数(頭)	299	42	104	82	155	79	74	134	969
肉用牛	農家数(戸)		1			2				3
	頭数(頭)		28			65				93
豚	農家数(戸)		1	4		1				6
	頭数(頭)		209	5,146		1,311				6,666
鶏	農家数(戸)	1								1
	頭数(羽)	410								410

2 主な畜産振興施策

(1) 畜産経営技術講習会、研修会

畜産経営の向上のための技術講習会や研修会の開催を支援した。

(2) 平塚市畜産共進会

家畜の改良増殖と生産振興を図るため、平塚市畜産共進会を開催した。また、畜産業への理解を図るため、でてこいまつりにてPRブースを出展した。

(3) 家畜伝染病予防注射事業

家畜伝染病予防法に基づく注射及び検査等について、県家畜保健衛生所と密接な連絡を取りながら、県畜産会との連携の下に家畜防疫推進のための支援事業を行った。

(4) 乳用とく育成管理共進会

優れた資質を持つ「とく牛」の基礎となる乳用牛の飼養管理及び育成技術の向上を図るため、共進会の開催を支援した。

(5) 家畜用浄化槽維持管理共励会

畜産環境の向上を目的に整備された家畜用浄化槽の適正な維持管理のため、関係機関とともに巡回指導を行う共励会を支援した。

(6) 自給飼料作物栽培促進対策

飼料高騰に伴う畜産農家の経営の安定と農地の遊休化防止及び自給率向上のため、自給飼料作物の栽培促進を図るために種子購入経費を補助した。

(7) 畜産環境対策促進事業

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、畜産農家が家畜用浄化槽や堆肥化施設等の家畜排せつ物処理利用機械施設を改修する際の費用の補助及び脱臭資材購入費の補助を行い、畜産環境対策の促進を図った。また、畜産環境の保全及び家畜防疫の推進を図るため、市内で畜産業を営む者が死亡家畜を処理する費用の一部を補助した。

第3節 土地基盤整備事業

土地改良事業は、農業経営の近代化に対応した生産基盤としての耕地の整備改良及び都市農業に対応した施策として、主に農業振興地域内を対象とした農道整備事業、用排水路改修事業を実施している。

1 土地改良事業に対する補助率等

区 分	農道・かん排・暗渠排水・用水・他
国庫補助 農業基盤整備促進事業	国費 50%、県費 20%、市費 30%
県費補助 農とみどりの整備事業	県費 50%、市費 50%
市単独補助 小規模土地改良整備支援事業	90%以内

2 土地改良事業

(1) 国庫補助農業基盤整備促進事業

ア 堰改修 1か所

(2) 県費補助農とみどりの整備事業

ア 農道改良 5か所 L= 241m

イ 用排水路改修 2か所 L= 186m

(3) 市単独補助小規模土地改良整備支援事業

ア 用水ポンプ施設修繕等

1か所 部品交換及び整備等

イ 取水施設修繕等

2か所 部品交換及び整備等

ウ 暗渠、排水整備修繕等

3か所 暗渠、排水施設の整備及び修繕等

第4節 ひらつか花アグリ推進事業

ひらつか花アグリは、神奈川県、平塚市、湘南農業協同組合、地元農家組織、地域住民等が協働して、農業への理解を深め、農業の振興に寄与することを目的に、県が市内寺田縄の旧農業総合研究所跡地に整備した「花菜ガーデン」と本市等が周辺に整備した「農の体験・交流の場」が一体となって様々な事業を展開している。

1 施設

(1) 神奈川県立花と緑のふれあいセンター花菜ガーデン

四季折々の花木や草花の観賞ができるほか、体験圃場での農業体験や自然体験学習を行い、農業の理解促進や情報発信をしている。

(2) J A湘南あさつゆ広場

湘南農業協同組合が運営する大型農産物直売所。生産者と消費者のふれあいの場として、野菜や果物、花等を販売している。また、平塚漁港で水揚げされた水産物や地元の名産品も取り扱っている。

(3) 湘南いちご狩りセンター

地元のいちご生産者で組織する「ひらつか金田いちご狩り組合」が運営し、いちごの摘み取り体験ができる施設。J A湘南あさつゆ広場内に案内所を設置している。

(4) 金田市民農園「マイ菜ファーム」

地元の農家組織「金田大型市民農園組合」が開設した大型市民農園（178区画）。水道の利用や農機具の貸出を行っている。

(5) 平塚市農の体験・交流館

本市が農業に親しむ場の提供と農業理解の促進を図る拠点として整備した施設。隣接する金田市民農園マイ菜ファームの運営の支援を行うほか、農園相談員による栽培相談を行っている。

2 主な事業

(1) イベント

花菜ガーデンの「ローズフェスティバル」、あさつゆ広場の「友好都市フェア」など、各施設の単独イベントのほか、各施設が連携して「収穫祭」、「いちごフェア」、「周年祭」を実施し、ひらつか花アグリ内を回遊させるため、スタンプラリーやクイズラリーを行っている。

(2) 花畑創出事業

地元農家と協働し、休耕期の水田を花畑にする取り組みを行っている。

(3) 農業体験事業

農業理解や食農教育推進を目的として、市民団体や地元農家組織と協働で「親子野菜づくり教室」、「採れたて野菜調理教室」や「米づくり体験隊」等を実施している。

3 その他

平成28年度は、友好都市の花巻市から平成28年1月に寄贈を受けた「宮沢賢治ゆかりのバラ」（グルス・アン・テプリッツ）を活用し、花菜ガーデン、あさつゆ広場、農の体験・交流館にて「宮沢賢治生誕120年記念事業」を実施した。

第5節 その他事業

1 担い手の育成や支援

(1) 農業者金融支援事業

・かながわ都市農業推進資金利子補給

家畜導入や農業機械導入等施設資金に対して、予算の範囲内において年1%以内の利子補給をした。

かながわ都市農業推進資金	延べ件数	43件
	利子補給額	651,539円

・農業経営基盤強化資金利子助成

農業経営基盤強化資金の融資を受けた認定農業者に対し、予算の範囲内において、公庫貸付金利(3.5%を上限とする)のうち、財政融資資金利率を勘案した利子助成率に対し市が利子助成をした。

農業経営基盤強化資金	延べ件数	1件
	利子助成金	3,657円

(2) 援農ボランティア事業

人手不足に悩む農家と、農家をサポートする人を繋ぐ事業で、農家の農作業を手助けするとともに、参加者の余暇の充実と農業への理解を深め、平塚市の農業の振興を図ることを目的としている。サポートファーマー育成事業の代替として実施しており、平成28年度の実績としては、ボランティアと農家のマッチングを7件行った。

(3) 認定農業者制度

「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」(平成26年9月改訂)に示された経営水準を目指して意欲的な農業者が経営改善計画を作成し、認定を受けた農業者に対して経営改善の支援をした。また、平成18年度に湘南地域担い手育成総合支援協議会を設立し、関係機関との連携のもと当該制度の効率的な推進と適切な運用を図っている。

認定農業者数(平成29年3月末現在) 累計220経営体
(新規認定:1経営体 再認定:18経営体)

(4) 農業経営改善支援活動

湘南地域担い手育成総合支援協議会と連携し、認定農業者制度等の普及・啓発及び認定農業者の育成・確保を行った。

2 でてこいまつりへ参加

本市の農業理解の促進を図るために、11月12日(土)~13日(日)に平塚市総合公園で開催された「JA湘南でてこいまつり2016」に参加し、各種PRを実施した。

県内一の生産量を誇る「米」の消費拡大運動を目的としたポン菓子配布、花の消費拡大を目的としたミニフラワーアレンジメント体験等を実施した。また、平塚産農産物PRキャラクター「ベジ太」のPRブースを設置し、農産物に関するクイズを実施することで、地産地消の推進を図った。

3 市民農園整備支援事業

市民農園の開設に向け、市ホームページ等により農地地権者へのPRを行った。

設置24か所(1,235区画) 平成29年3月現在(金田市民農園マイ菜ファームを含む)